

2019/06/23

「問題の解決はどこにあるのか」

人はそれぞれ様々な問題を抱えています。その問題の解決はいったいどこにあるのでしょうか。今あなたが抱えている問題解決のために何をすればよいのか、まずは信仰の先輩たちがどのように問題を乗り越えてきたかを見てみましょう。

「信仰によって、ノアは、まだ見ていない事柄について神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。」(ヘブル 11:7)

ノアは信仰によって問題を乗り越えた、とあります。

ノアの時代、神を信じる人はノアの家族 8 人だけで、残り的人達は皆、神を信じることを拒否して偶像礼拝をしていました。

キリスト教の歴史は迫害の歴史です。ノアの時代、世界でたった 8 人のクリスチャンは、迫害され命の危険すらあったであろうことが容易に想像できます。

そんな中、神は、大洪水が起こることと、ノアたちをそこから守ることを、ノアに啓示なさいました。絶体絶命の危機の中で、ノアは信仰で家族を救い出すことに成功したのです。

「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。」
(ヘブル 11:8)

この時のアブラハムの年齢は 75 才です。人生も晩年に差し掛かり、何のために生きるのか、自分の人生は何だったのかを振り返り、人生の締めくくりを考える時期と言えるでしょう。

そのアブラハムに対して、神はどこに行くのかを伝えぬまま移住を命じ、アブラハムは信仰でまだ見ぬ場所を目指しました。

何のために生きるのか、その答えをくれるのも信仰です。信仰によって、人生の意味を見出し、生きる意味を知ることができるのです。

「信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。」
(ヘブル 11:9-10)

神の約束を信じて到着した土地には他の人々が住んでいたため、アブラハムは天幕(テント)暮らしをすることになり、そこで、神が建ててくださる国を思い描いていました。

私たちは、誰もが生活の向上を望んでいます。また、人が抱えている問題の中には、生活

の向上によって解決するだろう問題も多くあります。アブラハムも、それまでの生活を捨てて神に従って来たからには、生活が向上することを期待していた面もあったでしょう。しかし、現実には、向上どころか、むしろ生活は悪くなっているようにも見受けられます。それでもアブラハムはまだ見ぬ素晴らしい国を思い描き、生活が改善することを信仰で見たのです。

私たちが願い求める生活の改善についても、信仰で解決せよと神は導いておられます。

「信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な方と考えたからです。そこで、ひとりの、しかも死んだも同様のアブラハムから、天の星のように、また海べの数えきれない砂のように数多い子孫が生まれたのです。」（ヘブル 11:11-12）

神は、アブラハムに数多くの子孫を与えると約束をなさいました。年齢的には不可能なことと思われましたが、アブラハムはその約束をずっと信じていました。

アブラハムは、信仰によって、不可能と思える問題と向き合うことができました。私たちは問題にぶつかると、まずは見えるところの問題、物理的な問題の解決に取り組もうとするものです。それは決して間違いではありませんが、どんな問題も、本質的な問題の解決がなければ、人は同じことを繰り返して、いっこうに心に平安が来ません。信仰によって問題を解決するとはどういうことか、なぜ信仰によって解決する必要があるのかを正しく理解し、平安を受け取りましょう。

■なぜ信仰で解決するのか

不安や苦しみや恐れという問題を本当に解決したければ、それらが生じた問題の原点を理解しなければなりません。なぜ人は、不安・苦しみ・恐れという感情を抱くのか、という原点です。それがわからなければ、信仰で解決することの意味がわからなくなってしまいます。

哲学では、人が何かを意識するのは、私たちの中の基準となる普遍的な運動に、何か刺激が加わった時であると考えます。たとえば、坂道を転がるボールを想像してみてください。何も障害がなければ、ボールは同じ運動を続けるだけで、何かを意識するということはありません。しかし、カーブや行き止まりなど外側から刺激があると、そこに変化が生じ、立ち止まって何かを考えることとなります。人間の中にも普遍的な運動があり、その運動が外からの刺激によって邪魔されたとき、人は不安等の感情を意識するのだと、哲学者は考えました。

人間の中にある普遍的な運動とは何でしょうか。聖書が教えるところによると、それは神を求める運動です。私たちの魂は神のいのちによって造られているために、神に近づこうとし続けています。人間が、自由や永遠、愛されることを求めているのは、神に近づきたいという思いがあるからなのです。私たちの魂は神にとらえられているため、魂が神を求める運動をするのを、誰も止めることはできないのです。

さて、魂と共に人間の存在を支えるもう一つのものが体です。すると、ここに問題が生じます。魂は永遠であるのに、体は有限であるという問題です。体が有限になってしまったの

は、悪魔に欺かれたことによって、人間が死ぬものとなったからです。有限であるからだけでは見えるものによる安心を求め、私たちは、永遠性を求める魂と有限性を求める肉体という矛盾したものを同時に抱え、魂と体をつなぐ精神は常に不安な状態にあります。この不安がまた見える安心をむさぼります。

私たちの中には、神に近づこうとする普遍的な運動があるのですが、体が有限性を求めているために、永遠性を求める運動を邪魔しているのです。パウロはこのことに気づき、神に近づこうとする自分の中にもう一人別の自分がいてそれを邪魔しているという、自分のみじめさに、「誰がこの死のからだから救い出してくれるのか」と打ちひしがれました。

つまり、私たちの魂は神に近づくことを目指しているのですが、有限の世界では神が見えないため、神に近づきたくても近づくことができない、求めたくても制約を受けているという状態に不安を抱えていることが問題の原点なのです。

そして、この不安は実体がないため、私たちの潜在意識は、不安をなんらかの実体に結びつけ、実体を解決することで不安を取り除こうとします。私たちが意識できるのは見えるところの不安なので、それを取り除いて解決すれば不安がなくなると思っているのですが、実は、本当の不安の原因は、別のところにあるのです。

■神に近づく

人が何らかの出来事にぶつかって、不安や恐れを感じるのは、自分自身の中にそもそも存在していた不安のためです。この不安は、魂が永遠性を求めているのに肉体は有限性であるという矛盾から来ています。

私たちの魂は神に造られたものであり、神を求めています。だからこそ、すべての人は神の性質である永遠や自由や愛を欲して生きているのです。

しかし、有限の世界の中では、それを得ることはできません。それを可能にするのは、神だけです。結局、この地上における問題は、神にしか解決がないというのが哲学者の結論となりました。魂が永遠性を求めていることは明白であり、それがこの地上では不可能である以上、問題の解決は神にしかないのです。この世界で神に近づく唯一の方法は信仰です。これが正しい解決であり、初めから神が私たちに教えている通りです。

神に近づくことが問題の解決です。では、人はどのようにして神に近づくことができるのでしょうか。

1. 神の言葉を受け取る

神に近づくとは、神の言葉を信じることです。

神は、この世界でことばをもってご自分を表しておられます。神を有限の姿として実体化したもの、それが聖書なのです。その問題に対して、あなたがどう思うかではなく、神は何と言っておられるのかを受け取りましょう。信仰とは、受け取ることです。神の約束の言葉をただ受け取ること、それが信仰です。

どこに答えがあるのか、聖書を開き、神の約束の御言葉をただ受け取りましょう。

2. 御言葉を思い描く

「これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。」（ヘブル 11:13）

神のことばは必ず実現すると思ひ描くことで、私たちは神に近づくことができます。現実がどうあれ、神の約束が実現したらどうなるのかを思ひ描いてみましょう。私たちの苦しみの本質は、神に近づけないことです。神に近づくことで安息を得ることができます。すべてのことは信仰に始まり、信仰に至ると聖書にあります。努力して豊かな生活を手に入れても、神との距離が縮まらない限り、平安を得ることはできません。

「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」
(ヘブル 11:1)

3. 祈り続ける

「ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはなりません。それは大きな報いをもたらすものなのです。あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。」（ヘブル 10:35-36）

神に近づく方法は、確信を投げ捨てないことです。祈っても状況が変わらないように思えたとしても、忍耐して祈り続けることです。祈り続ければ必ず平安を手にすることができます。

ノアもアブラハムもサラも、信仰で問題を解決しました。それは信仰で神に近づいたということです。神に解決を求めて祈るなら、神に近づくことができ、安息を得ることができるのです。

問題にぶつかることは、神に近づくチャンスです。私たちのすべての問題の原因は神に近づくことができないことにあります。神に近づくことが、すべての問題の解決になるのです。

問題にぶつかったら解決は信仰にあると思ひ起こし、神の言葉を求め、御言葉を受け取り、受け取った御言葉を思ひ描き、確信を投げ捨てないで、忍耐して祈り続けて生きていきましょう。